

はじめに



現在、私たちを取りまく社会経済情勢は、めまぐるしく変化しています。それは、地域社会へも影響を及ぼしつつある少子化・高齢化の波であり、また成熟期を迎えた経済状況であり、それらを背景に人々の意識は変化し、価値観は多様化しつつあります。また、私たちは一方で、いじめ問題などを抱える教育現場の改革や、震災対策にとどまらない危機管理

体制の確立、国際化する社会のなかで担うべき役割の見直し、急速に進展する情報化社会への対応など、様々な課題に直面しています。それらの変化や課題に対応するため、国レベルで社会の仕組みを変えるための考え方が模索され、論議されはじめています。しかし、これらの環境の変化の中で、私たちは、生活者としてこの横浜に暮らしている

す。三百三十万都市である横浜も、私たちにとっては生活のステージである、という目で足元から見直してみた時に、日々の暮らしの中の「生活環境の変化」が、具体的な形をとるものとして見えてくることでしょうか。

今回の市民生活白書は、市民生活の実態を、横浜市が毎年実施している「横浜市民意識調査」における「生活の心配」とは何か、という質問への回答で、近年の上位を占める四つの生活の課題、「仕事・職場」、「住宅・暮らし」、「子育て・教育」、「病気・老後」をテーマごとに市民の方々へのインタビューを素材として浮き彫りにしようとしたものです。そして、この白書をおして、私たち横浜市民が持つ、そして解決していかなければならない共通の課題を把握することができたら、と考えています。ご一読していただければ、「ああ、そんなこともある、ある」という共感をもって、本白書を「横浜市民の暮らし」について語り合う素材としてご利用いただけるのではないのでしょうか。

二十一世紀を迎えるまであとわずか、とは言えその日を境に劇的な変化が訪れるわけではありません。新しい横浜をつくりあげるためには、今からその日に向かって着実に一步一步を踏みしめていかなければなりません。

今回の市民生活白書を、皆さんとともに新しい横浜のまちづくりを考える礎としてご紹介できれば幸いです。

平成九年十月

横浜市長 高秀秀信